

平成28年度第3回奈良市社会教育推進懇話会の意見の概要

開催日時	平成29年2月9日（木）午前10時から正午 まで
開催場所	奈良市役所 中央棟1階 第3会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案について ①計画の導入部分の書き方 ②奈良市を取り巻く環境の変化 ③計画の施策体系及び重点項目 ④計画の名称
参加者	出席者7人 ・ 事務局6人
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	教育総務部生涯学習課

意見等の内容の取り纏め

事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

1 計画素案について

- ・計画素案を示し、説明を行った。

【意見等】

＜計画の導入部分の書き方＞

- ・一般的に地方創生は、人口減少問題に特化して出てくる面があり、奈良市の場合、子育て支援から地方創生を目指すという方針が出ている。地域社会で子どもをささえ、子育てしやすいまちをつくり、人口減少に歯止めをかけること（地方創生）は、まわりまわって生涯学習が充実していて、学習を通じて地域でつながりができているということに直結している。このことを強調した書き方にできればと思う。
 - ・地方創生を子育て支援にからめ、子育て支援にはコミュニティ形成が必要であり、社会教育につながっているという構図であれば、文章に子育て支援のことを入れた方がいいのではないか。
- 奈良市には、子育て支援を推進する部局があり、独自の計画を策定して施策を行っていることから、社会教育の計画の中では、部局間の連携は必要だが、「家庭教育」と「子育て支援」の棲み分けをある程度したいと考えている。計画の中でいう「家庭教育」は、地域ぐるみで家庭教育の支援をしていき、地域コミュニティ

- 形成につなげていくことを目指しているので、計画の導入部分に「家庭教育」や「子育て支援」について書かなくてもいいのではないかと考えている。
- 3 ページの計画の対象範囲の図に「子育て」を入れたらいいのではないか。
 - 社会教育法では、社会教育の対象は青少年及び成人とあり、乳幼児を含まない。社会教育は直接的には乳幼児に教育せず、家庭教育支援をすることが含まれる。
 - ・本文4行目の「現在、人口減少や～が求められています。」について、最初に「本市では、～」ではじまっているので、「全国的には」という文言を加えた方がいいと思う。
 - ・「地方創生」という言葉が出過ぎており、地方創生が目的のような感じがする。計画を推進していくと、実は地方創生に寄与するという表現の方がいいのではないか。
 - ・本文11行目の「社会教育の視点から地方創生を推進する取組」を削除し、「社会教育の視点から学びを通じた「つながり創出」、「地域活性化」を進めていきます。」としてはどうか。

<奈良市を取り巻く環境の変化>

- ・一般論で言われている課題が多いので、奈良特有の課題をもう少し入れた方がいいのではないか。
 - ・奈良で暮らしている人は大阪などの近郊都市で働く人が多いことから、家と職場の往復だけではなく、奈良で生活を根付かせ、地域コミュニティを形成する取組が必要ということを書いてはどうか。
- ベッドタウンのことは、(2) 地域社会、家庭の変容のところに入れることとした。
- ・昼夜人口比率を入れてはどうか。
 - ・(3) の国際化の進展に関連して、定住外国人問題はあるのか。外国にルーツを持つ子どもたちへの教育などはどうなっているのか。
- あまりない。どちらかという、いかにインバウンドをすすめていくかを課題としている。
- ・ひとり親世帯のことなどは入れなくていいか。
 - ・環境問題において、奈良で特有の課題はあるか。
- ナラ枯れ問題などがある。

<計画の施策体系及び重点項目>

- ・各施策のところにある指標は、第4次総合計画から抜粋しているが、これとは別に指標を設けるか新たに設けなくても意識して取り組んでほしい点がある。まなぶ(13 ページ)の指標では、課題で「若い世代の読書活動を推進する必要がある」としていることから、取組の進捗状況を見るには、10代の図書館利用や貸出数を見ないといけないのではないか。また、公民館における市民企画講座や自主グル

ープとの共同企画の数がどれだけ増えたかなどがチェック項目になるのではないかと思う。つなげる（16 ページ）の指標では、つながりがどのように増えていったのか見ていく必要がある。18 ページの家庭教育支援では、様々な組織がつながりをつくり、家庭教育を支援していき、それをひとつの社会教育資源として、生涯学習課が必要な課題を把握、整理していきたいとしている。例えば、すこやかテレフォン事業や子育てスポット事業等の各事業の年次報告書にあがっている課題を把握、整理することができたか、あるいは各事業を運営する関係者の会合が開催できたかなどの指標が考えられる。このような指標や取組が協働を生みだすきっかけになると思う。ささえる（21 ページ）の指標では、若い世代や働き世代の利用を増やしていきたいのであれば、その世代の利用者数を見た方がいいのではないか。課題で、「子ども会議で出された意見を検討する必要がある」としているので、子ども会議の意見を反映した事業の企画運営数などを指標としてはどうか。また、「青少年施設の利用方法を検討していきたい」としているので、先駆的な青少年施設の現場を視察して、施設を活性化させるための方法を検討し、施策に活かすために、年に1回視察に行くなどの指標が考えられる。地域コーディネーターの受講者数も指標として考えられる。

→進捗管理を行うには成果指標は必要であり、第4次総合計画にあげている指標だけではなく、新たな指標を設けることができればと思うが、現状では難しい面がある。今後、計画を見直していく中で、指標を新たに設けるなど検討していききたい。

→指標については、今後計画を進める中で、社会教育委員会議で議論し、検討していったらと思う。量的な指標は示せても、質的な指標はかなり難しいと思う。

→人数が減ったから悪いかというところではないケースもあると思うので、適正にきちんと評価したいと思う。事業の意味と価値が反映された指標をつくり、現場の蓄積されたものが認められつつ、改善点も共有でき、改善するために話し合うためのツールにできればいいと思う。

・奈良市教育振興基本計画には指標があるのか。

→ない。法律に基づき、毎年、教育委員会施策評価（自己評価）を実施しており、外部評価者にも意見を聞いている。

・図書館はどこを対象としているか。移動図書館は利用者数にカウントされているか。

→市内には中央、北部、西部図書館がある。移動図書館もあるが、利用者数にカウントされているかは把握していない。

<計画の名称>

・計画名とサブタイトルについては、このままで分かりやすいと思う。

・市民が手に取りたいと思うようなタイトルをとということであれば、市民目線とし

て「社会教育活用マニュアル」としてはどうか。

→「社会教育活用マニュアル」とするならば、巻末の資料編に連絡先を追加した方がいいと思う。

→他市の計画では、計画の別冊として事例集を出しているところがあり、市民目線で考えると、市内で活動している団体や事業、取組が把握できるものがあればいいと思う。今後は、生涯学習の拠点づくりを目指し、まずはその第一歩として、行政が行う学習事業を把握して発信していくことから始め、将来的には事例集のようなものが作成できればと思う。現段階では、この計画は「社会教育活用マニュアル」という名にふさわしいものではないように思う。

- ・「学び合い、つなぎ合い、支え合い」からとり、「3合い計画」としてはどうか。
- ・計画の三本柱である「まなぶ・つなげる・ささえる」を書いてはどうか。
- ・サブタイトルの字をもう少し大きくした方がいい。

<計画全体>

- ・3ページの計画の対象範囲の図で、「高齢者福祉」とあるが、福祉の対象は高齢者だけではないことから、「福祉」とする方がいいのではないか。

→総合計画の分類に合わせ、「高齢者福祉」のままにする。

- ・12ページの現状と課題のところ、「公民館の利用者数は増加傾向ですが、～利用者が固定化しています。」とあるが、「～固定化傾向にあります。」とした方がいいと思う。

2 その他

- ・公民館の主催事業で、「公民館って、どんなところ？」と題し、公民館のこれからを考える講演会とおしゃべり会を組み合わせたイベントの案内があった。